

CEOメッセージ



代表執行役社長 CEO

島田 太郎

2023年8月から実施されたTBJH(株)による当社株式に対する公開買付けが成立しました。当社は2021年から戦略的選択肢の検討を進めていましたが、東芝グループがどのような道を歩むべきか、そして、様々なステークホルダーにとって何が最適な選択肢なのか、取締役会と執行役で真剣な議論を重ねた結果、安定した経営基盤を構築し、株主からの統一的な支援を得るために株式を非公開化することが最良であるとの結論に至りました。当社は今後、新しい株主の下で中長期的な企業価値の向上に努めてまいります。

東芝グループは、デジタル化を通じて、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーの実現を目指しています。

企業価値を向上する手段として重要なのがデジタルです。デジタルエコノミーの発展に伴い、様々な企業が産業の垣根を越えて繋がることで、新たな社会価値が創造されます。東芝では、デジタルエボリューション(DE)、デジタルトランスフォーメーション(DX)、クアンタムトランスフォーメーション(QX)という戦略を定めています。

第一段階のDEでは、インフラをデジタル化することにより、ビジネスのサービス化、リカーリング化を達成します。次の段階のDXでは、それがプラットフォーム化し、急激に収益が拡大するサイクルをつくることができます。そして、プラットフォーム化された様々なDXが出現し、複雑に絡み合った中から量子技術により最適化していくQXへと発展させていきます。

東芝グループの事業成長を短期、中期、長期の時間軸で考えると、まず短期的には、カーボンニュートラルの達成に欠かせないデバイスであるパワー半導体や二次電池の旺盛な需要に設備を増強して対応していきます。

中期的には、インフラ資産を活用したデジタル事業の拡大を目指します。アプリ、ソフト、ハードを分離し、プラットフォームを構築するSoftware Defined Transformationにより、DE、DXを達成します。また2030年以降の社会実装を想定しているQXのため、量子の分野でも先行して様々な取り組みを行っており、量子暗号通信では既に世界中で商用実証を展開しています。

長期的には、カーボンニュートラルを実現する技術やソリューションを提供し、それらを収益の柱へと育てていきます。CO₂排出量を削減するだけでなく、CO₂を除去(回収、輸送、貯留、利活用)するカーボンネガティブにも注力し、「削減」と「除去」に関する様々な技術、製品、ソリューションをお客様に提供していきます。

この成長を支える東芝の強みは、技術のダイバーシティにあります。それは単純に一つの技術が一つの製品を生み出すのではなく、研究所に蓄積された様々な技術が結合することで生まれるものです。複数の領域での技術の掛け合わせにより、まだ世の中に無い製品やサービスが生み出されていきます。ポテンシャルの高い技術をしっかりと事業に繋げていくため、組織の壁や自前主義といった内部、外部の硬直性を打破し、様々な社内改革も推進していきます。

「人と、地球の、明日のために。」東芝グループは、この言葉を見て自然と力が湧いてくる人たちが構成されています。非公開化により、安定した経営基盤を構築するとともに、中長期的な視点で会社を変革し、サステナブルな社会の実現に貢献できる会社として成長するその姿をお見せするのが私の責務だと考えています。

その成長をサステナブルなものにするためにも、生命・安全とコンプライアンス(法令、社会規範、倫理の遵守)を最優先するとともに、倫理的で透明性のある経営基盤の構築に向けてE(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)の強化に努めていきます。

東芝と東芝に関わるマルチステークホルダーの皆様におかれましては、当社グループの揺るぎない経営理念と信念をご理解いただき、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

2023年11月

取締役会議長メッセージ

2023年9月にTBJH(株)による当社株式に対する公開買付けが成立しました。この公開買付けには、取締役会として賛同し、株主の皆様に応募を推奨していました。多くの株主様に私たちの考えをご理解いただいたことに、深く感謝申し上げます。

今後、東芝は非公開会社として、引き続き企業価値向上に努めていくこととなります。

私は、議長就任時から、「東芝は『人と、地球の、明日のために。』という素晴らしい経営理念と、お客様や社会のために懸命に働く多くの優秀な従業員に支えられた『良い会社』だが『強い会社』ではない。」ということをおっしゃっていました。そして、東芝を「強い会社」にするために、約1年にわたる検討を進め、非公開化という結論に至りました。

取締役会としては、社外取締役のみで構成される特別委員会を中心に、強い東芝をつくるという共通の使命感のもと、島田CEOをはじめとする執行チームによる検討プロセスが、完全に競争的で公正なものとなるよう監督するため、多くの時間と労力を費やしました。結果として公正で透明性の高いプロセスを、競争環境を維持しつつ行うことができたことは、株主の皆様にもご理解いただけたと考えており、取締役会の役目を果たすことができたと感じています。

東芝が中長期で一貫した事業戦略を実行し、強い東芝になるためのトランスフォーメーションを成功させるためには、安定した経営基盤の構築が必要であり、非公開化は東芝の企業価値向上に資するものです。しかし、非公開化は一つの区切りではありますが、ゴールではありません。

東芝には、「人と、地球の、明日のために。」という経営理念に基づき、デジタル化を通じて、カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーの実現を目指すという大きな方針があり、それを可能にする歴史に裏付けされた技術のダイバーシティがあります。サステナブルな社会の実現に向けて貢献していくという東芝の役割は変わることはありません。東芝にとって最も大切な経営資源は、私自身が実際にお会いしたような、国内外の研究所や工場などの各拠点におられる優秀な従業員の方々です。バランスシートには計上されていない人的資本などの無形資産に目を向け、その価値を最大限引き出すことが重要であり、困難を乗り越えようとするとき、最後はやはり人の力だと思っています。

非公開化を通じて事業に集中し、成長に取り組む経営を進めることで、東芝が本来の力をますます発揮し、真の再生を遂げ、再び成長する姿を信じています。

2023年11月



社外取締役
取締役会議長 渡辺 章博